Tale the silverdragon-another story

えふちー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｔａｌｅ　ｔｈｅ　ｓｉｌｖｅｒｄｒａｇｏｎ－ａｎｏｔｈｅｒ　ｓｔｏｒｙ

【Ｎコード】
Ｎ６７８８Ｉ

【作者名】
えふちー

【あらすじ】
これは、銀龍が幻想郷に来る前の、とても大きな戦争の物語。

雨が降っている。

まるで全てを洗い流そうとするかのように。

雨が降っている。

もう休め、と俺の体を倒すように。

止まない、雨が降っている。

Ｔａｌｅ　ｔｈｅ　ｓｉｌｖｅｒｄｒａｇｏｎ－ａｎｏｔｈｅｒ　ｓｔｏｒｙ

時は神代。
まだ、魔法や魔物が普通に存在したころ。
銀龍フラガ・ヴァルキリオンは、仲間達と共に、遠くの城を見据えていた。
「ネサラディア、敵の数は分かるか」
「…分からないね、数が多すぎる」
狙撃銃の望遠照準器を覗き込んで言うのは、ネサラディア・ヴァルキリオン。フラガの妻にして、最強の狙撃兵である。
「私の目でも数えきれん。ここは一旦引いた方が良いのではないか？」
そう言うのはヴァルキリー。フラガに次ぐ剣の腕の持ち主である。
「マスター、四人でこの数はあまりにも無謀です。体勢を立て直した方がよろしいかと」
無機質な喋り方をするのはリニア。フラガの従者にしてオートマタである。
「いや、ここまで来るのにもうすでに神軍にはたくさんの犠牲が出ている。それは致し方ない事だが、ここで俺達が退くわけにも行くまい…」
そう言うと、フラガ達は城に向かって歩き出した。

要塞のような城の前に綺麗に並んだ、数万…いや数十万の武装した兵士達。
その先頭に、白馬に乗った男が一人。龍殺しの剣アスカロンを持った、ゲオルギウスである。
今回攻め入って来るのは銀龍であるフラガ。
よって、人間軍は彼の龍殺しが切り札となると考えた。
「本当に、私ごときがあの銀龍を討ち滅ぼせるのか…」彼の心配はもっともである。銀龍王と呼ばれるフラガ・ヴァルキリオンには、今までいかなる龍殺しの騎士が挑んでも、傷ひとつ付けられずにボ

ロボロで帰って来るのだ。
いずれの騎士も殺されてはいないが、もう二度と戦えない体で帰ってくるのである。

ゲオルギウスは、それが恐ろしかった。死ぬのは怖くはない。だが、死ぬまで戦えないのは、何よりも恐ろしかった。
「私も、あの騎士達と同じ運命にあるのか…いや、違う。勝つのだ。勝たなければなるまい」
ゲオルギウスは頭を振って、雑念を振り払おうとした。

フラガ達はもう城の前まで来ていた。
こちらか、向こうの隊長が剣を掲げれば戦は始まるだろう。
フラガに迷いは無い。この数多の兵士を相手に出来ない訳でもない。
だが、必ずこの仲間達を失うことは、安易に予測できた。
「…お前ら、退くなら今のうちだ」
しかし仲間達は無言。それは、フラガにとって嬉しく、しかし悲しい返事であった。

「！…来たか」
ゲオルギウスはフラガ達を発見すると、深く深く深呼吸をした。
「…ふぅ、さて、覚悟は出来た…行くぞ！兵達よ！！」
ウオオーッ！！！！
数十万の兵士が動き出したこの瞬間、最後の戦が始まった。

ドン…ドン…
ネサラディアは、遠くから敵兵を撃ち抜いていく。
「数が多すぎる…これじゃあきりがない…」

ネサラディアの狙撃は確かに兵士を減らしていくが、しかし数十万の兵士が相手では微々たるものであった。

「うぉぉぉぉ！！！」
ドゴォン！！
ヴァルキリーはその大剣から魔力の塊を飛ばして兵士を薙ぎ倒す。
が、減っているように見えない。
「くっ…なんだこの数は！！」
こちらは四人、相手は数十万と言う超劣勢に、ヴァルキリーは舌打ちをした。

「マスター、空対地範囲砲発射許可を」
空に浮かぶリニアが相変わらず無機質な声で言う。
「行け！敵の真ん中だ！」
「了解しました」
ボシュゥ…
キィィン！！
「よし！大分減ったか…ふっ！」
「なっ…！」
ズバッ
不意を突こうと後ろに迫っていた突撃兵を槍ごと切り払う。
「リニア！もう一発だ！」
「了解しました。次弾装填に15秒を要します」
「ちっ…幻想右眼！！」
フォン…
「う…おおぉ！！！」
ギィン！
辺りの敵が同士討ちを始める。
「銀龍！！」
「！！」

敵の向こう側から、馬に乗った騎士が駆けてくる。ゲオルギウスである。
「あれは…龍殺しか！ちっ！」
「マスター、次弾セット完了」
「よし！あの騎士を撃て！」
「了解しました」
ボシュゥ…
ガッ
「何！？」
ゲオルギウスはアスカロンで弾丸を受け止め、それをリニアに打ち返した。
「回避不能、マスター、離れて！」
キィィン！！
「くっ！リニア！！」
リニアは力なく地面に墜落した。
「くそ…龍殺し…貴様あぁ！！！」

「リニア殿！？」
一方、こちらはヴァルキリー。
徐々にスタミナを削られている。
「く…うあぁぁ！！！」
無謀な特攻。斬り走る中で身体中に剣や槍が刺さる。
「う…く、だがこれで…」
ヴァルキリーは、２万の兵を斬り殺し、その場に倒れた。

「！！ヴァルキリー！？なんて無謀な…フラガ！一旦引くわよ！！」
ネサラディアは、退却を叫ぶ。だが、一足遅かった。フラガは、己

が力を全て解放しようとしていたのだ。
「フラガ！止めなさい！！」

その龍、嵐を纏いて天に現れたり。
銀色の体は、まさしくこの世の絶景なり。
龍、叫びを上げると、その巨大な体を光らせ、まもなく、世界は銀になった。

戦場は、何事も無かったかのように静かになった。
死んだはずの兵士は起き上がり、壊れた物は全て元通り。
雲の間から落ちる一筋の光の中に、銀の龍…フラガの姿。
「これは…」
「フラガの全解放…。これをやったら、フラガはもう…」
『そうだ。俺はまもなく力尽きるだろう』
脳に直接聞こえる声。
どよめく兵士達。
ゲオルギウスは、
「何故だ！何故私達まで助けた！私達は貴様らを殺そうとしたのだぞ！」
『さあ…俺は戦が終わればそれでいい。何より、人殺しは好きじゃあない』
そう言うと、銀の龍はフラガの姿に戻った。
雨が、降り始めた。

雨が降っている。

まるで全てを洗い流そうとするかのように。

雨が降っている。

もう休め、と俺の体を倒すように。

止まない、雨が降っている。

貴方一人では行かせない―
そう聞こえた気がした。

フラガ達四人の体は、まばゆい光と共に、幻想へと消えていった。

（後書き）

はい、どうもえふちーです。
いやあぁー…シリアス難しい（汗）
元々フラガの幻想入り前の話は書こうと思っていましたが、まさかこれほど難しいとは…
それはともかく、いかがでしたでしょうか。Ｔａｌｅ　ｔｈｅ　ｓｉｌｖｅｒｄｒａｇｏｎ－ａｎｏｔｈｅｒｓｔｏｒｙ。
内容的には、たくさんの人が死んで、生き返る話です。
背景はラグナレク、最終戦争です。
短編もたまにはいいかな…
では、銀の龍と愉快な仲間たちでお会いしましょう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6788i/

Tale the silverdragon-another story

2010年10月9日16時25分発行